

資料3

今後の医学教育の在り方に  
関する検討会（第13回）

R7.4.23

# 筑波大学における 総合診療医養成の取り組み

筑波大学医学医療系 地域医療教育学  
筑波大学附属病院 総合診療科  
前野哲博

# 総合診療医養成における大学の役割

---



# 大学病院だけでは、総合診療医養成は完結しない

## 特定機能病院である

- 患者を総合的に診る姿勢が求められるのは同じ
- 専門家が揃っており、疾患に対する診療能力の修得には最適

その一方で、以下のような診療を行うことを主目的とする施設ではない

- 困ったことがあったら、すぐに何でも気軽に相談に乗る
- 病状が落ち着いてからもずっと定期的に通院する
- すべての健康問題を、慢性期も含めて包括的に診る
- 家族もまとめて一緒に診る
- 在宅ケア・施設でのケア
- 健常者の健康診査や、ヘルスプロモーションのための働きかけ



# 総合診療医養成にあたり、大学は…

- 積極的に取り組む義務がある

- すべての医学生が在籍している（医学生の約7人に1人は地域枠）
- 将来、9割の卒業生は大学病院以外で勤務する
  - 大学が取り組まなければ、早期からの教育、生涯キャリアパスは示せない

- 豊富なネットワークと選択肢を持っている

- さまざまな診療科、さまざまなセッティングで研修できる
- 行政との連携やサポートを受けやすい
- アカデミックキャリアも選択できる

- 地域における研究の拠点である

- 研究者としての能力を養成できる
- 地域ならではのリサーチエビデンスを発信できる

- 修了後もキャリアサポートが受けられる

- いい意味での「医局機能」が働く
- 継続的なキャリア形成、ライフステージに合わせたワークライフバランスの両立ができる

総合診療医養成のコアになりうる



# 筑波大学における 総合診療医養成の取り組み

---



# 筑波大学の基本コンセプト

## 地域で活躍する医師は、地域で育てる

- 大学－地域循環モデルによる教育システム
- 大学の持つ教育機能を、最適の教育フィールドである地域に展開する
  - 教育フィールドと教育資源をマッチさせる



# 地域医療教育の「場」の構築

筑波大学

地域医療教育の「場」

地域



総合診療科

教育資源の整備  
指導医の派遣

地域医療  
教育施設

フィールドの提供  
教育研究経費の支援



介護・福祉



保健活動



訪問診療

情報提供・支援

行政・医師会



# 寄附研究部門 地域総合診療医学 事業概念図

教員数：14名  
寄附金額：1.54億円/年

## 【目的】

- 住民が地域で安心して健康に暮らせるヘルスケアサービスの先進的なモデルの構築
- 地域で活躍する総合診療医や、地域の特性を生かした多職種連携を実践できる医療人の養成
- 地域総合診療医学に関する研究の推進と成果の発信

笠間市



筑波大学



筑波大学

大森医院



医療法人恒貴会



地域



北茨城市



水戸市



医療法人博仁会



利根町



医療法人若竹会



## 【事業内容】

1. 総合診療の実践と人材養成
  - 地域における総合診療の充実
  - 学生教育（低学年、高学年）
  - 総合診療専門医の養成
2. 先進的な地域包括ケアシステムの構築
  - 地域における多職種連携の推進
  - 多職種が既存の枠組みを超えて協働する新たな職種間連携のモデルと養成プログラムの開発
3. 地域ヘルスプロモーション活動の充実
  - 健康教室の実施
  - 住民参加型活動の支援
4. 地域総合診療医学領域の研究



# 筑波大学における地域医療教育プログラム

学年	必修/ 選択	プログラム名	内 容	場所	期間
1	必修	人間性教育	入学直後に行う導入のコース。「健康の社会的決定要因」等をテーマとする チュートリアルを実施する。	学外	2日間
1～4	選択	研究室演習	希望者向けの選択科目。低学年から継続して地域の現場に入り、地域医療に対 する理解と魅力を実感することを目的としたフィールドワークを行う。	学内・学外	通年
2	必修	医療概論Ⅱチュートリ アル「在宅ケア」	地域医療研修STで在宅医療を受けているケースについて、チュートリアル形 式でケアプランを作成する。	学内	1週間
2	必修	早期体験実習	地域における診療所・中小病院の見学実習を行う	学外	2日間
2	必修	多職種連携教育Ⅰ	医学類と茨城県立医療大学(看護学科・理学療法科・作業療法科・放射線技術 科学科)の学生でTBL方式で多職種連携について学ぶ。	学内	1日間
3	必修	ヘルス・ プロモーション	健康教育について大学で準備教育を受けた後、住民および学校を対象とした健 康教室に直接参加する。	学内・学外	5日(演習) 1日(実習)
3	必修	多職種連携教育Ⅰ ケア・コロキウム	3学類(医学・看護・医療科学)+東京理科大学薬学部の学生で、PBLチュート リアル形式で患者・家族に対するケアの在り方を討論する。	学内	1週間
4	必修	クリニカル・クラーク シップ準備学習	臨床推論の基本的な考え方、主要な症候の鑑別診断トレーニングを、Team Based Learning方式で行う。	学内	12コマ
5・6	必修	総合診療科/地域医療 実習	大学総診実習1週間+筑波大学地域医療教育センター・ステーションが設置さ れている施設を中心に、3週間の院外病院実習を行う。	学内・学外	4週間

# 数字で見る 「筑波総診」



プログラム開設からの年数



29年



現在在籍している専攻医数



22名



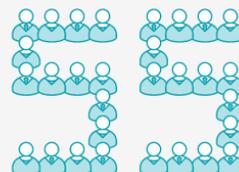
これまでの修了者数



75名



家庭医療専門医数



55名



大学教員数



22名



学位取得者数



博士28名 修士7名



関連施設数



24施設



現在のグループ在籍者数



92名



女性の割合



35.9%



研究費獲得件数



46件

(代表のみ。2019年～2021年度の3年間)



学会発表数



147件

(2019年～2021年度の3年間)



論文数



英文172本 和文52本

(2019年～2021年度の3年間)

